

令和7年度

熊本県栄養士会医療事業部第1回研修会(報告)

主 催 熊本県栄養士会

日 時 令和7年6月15日(日) 12:40~16:30

会 場 名 熊本県総合保健センター 大会議室

◇『精神疾患における栄養療法の実践について』

講師:熊本駅前 木もれびの森心療内科精神科
院長 木村武実 氏

「肉食で認知症が軽減」、というスライドから先生の講義が始まりました。

認知症疾患には、変形性認知症(アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症)、血管性認知症、混合型認知症、その他の認知症と多様な疾患に分類されるそうです。アルツハイマー病＝ドネペジルが一般的でしたが前頭側頭葉変性症にはこの薬が症状を悪化させるそうです。精神疾患は薬物療法が中心という印象がある中で、対症療法のため休薬すると悪化や再発のリスクが高いということを改めて認識しました。それぞれの疾患の特徴や対応の仕方についても詳しく教えていただきました。

冒頭のスライドは、肉の摂取が少ない(1回以下/週)と通常の摂取(4回以上/週)を比較し、少ないと認知症の罹患率が1.58倍、ADは1.67倍になるそうです。詳細には、認知症に関係するセロトニンの合成に重要な栄養素であるたんぱく質、鉄不足であることが問題ということでした。対症療法である薬物療法に対し、たんぱく質・鉄を補充する栄養療法は精神疾患の根本的治療を目指すことができるものであり、食の細くなった高齢者にはプロテインを上手に活用するのも一つの方法など、私たち栄養士にとって改めて考えさせられる講演となりました。ほか、介護のコツ10か条から薬剤の引き算(不要な薬をなるべく減らすこと、6種類以上の薬剤を飲んでいるとそれだけでも認知症のリスクである、タ張パラドックスの例を紹介など、とても興味深い充実したご講演でした。

◇『PES 報告で何が変わる？ 実例を通して考える』

講師:独立行政法人国立病院機構熊本医療センター
副栄養管理室長 加来 正之 氏

PES 報告は、「管理栄養士の強み」、「異なるスタッフが介入する」、「他者が一文で理解できる」を意識し実施する。実際に行っているSOAPの評価(A)の部分に3点を意識した栄養診断を行う(栄養療法により改善できること)、まずは栄養診断コードを付けることに囚われず診断を行い栄養計画(P)へつなげる。もっと簡便に実施できるようテンプレート化を行うなど具体的にわかりやすくご講義くださいました。

◇グループワーク

PES 報告が各施設で実践されているか、その効果、またされていない理由、障害となっていることなどを出しあいました。実践困難な理由として、コード選択に時間がかかる(類似したコードがあり悩む、コードが多い、別冊のため不便)、栄養量を数値化できていないため診断できないなどでした。

加來先生の講義でもありましたが、最初からコードに囚われずカルテを簡素化し誰もがわかりやすい記録であることを意識して記録していくことから始めてみようと感じた研修になりました。

ご講演頂きました木村先生、加來先生、ありがとうございました。

講演の前には、オリエンテーションとして熊本県栄養士会 会長 田上あつみ先生のお話がありました。

◇事務連絡等

令和6年度事業報告・決算報告

令和7年度事業計画案・予算案

今回も対面のみの研修会となり、48名の参加がありました。

次回は、10月25日(土)を予定しております。



【木村先生講演の様子】



【木村先生講演の様子】



【加來先生講演の様子】